

又序

029
326
1

如百函集 全



827
326
1

愛知女專
第 11475 號
圖書

六十二
五
五

藤

自序

いづれや

彼まめ人乃擗げらを抱く死せる
うこく。詞よかざらるるや。徒^タは過^タ君
乃化振一々まほおこし。いづきらは方に
すごをまろ。是れ仇讐の意白よりたすの
うそんういハあはくくまろ。つろくあめ
つらのかき目をかりふに。佛も救世の意路

あまの^{ツガ}子に言の嘘やう縁^バ。まう^ツ孔夫子
の仁ばかり。年^ニ睡^ニかのおらむ。意^ハを^シ撰^ル。
遠^クの^ケけ^チや^キま^シ。以^テ持^テ。月^ハま^シ。
好^ム人^ヲを^シあ^ハ。ま^シ。ま^シ。ま^シ。ま^シ。
り^テ吾^レ躬^ノの^シ神^ノの^シま^シ。ま^シ。彼^レま^シ。
ま^シ。ま^シ。ま^シ。ま^シ。ま^シ。ま^シ。
ま^シ。ま^シ。ま^シ。ま^シ。ま^シ。ま^シ。
ま^シ。ま^シ。ま^シ。ま^シ。ま^シ。ま^シ。

とも月を花にあはさう。ま^シ。ま^シ。
の^シま^シ。ま^シ。ま^シ。ま^シ。ま^シ。
ま^シ。ま^シ。ま^シ。ま^シ。ま^シ。
ま^シ。ま^シ。ま^シ。ま^シ。ま^シ。
ま^シ。ま^シ。ま^シ。ま^シ。ま^シ。
ま^シ。ま^シ。ま^シ。ま^シ。ま^シ。
ま^シ。ま^シ。ま^シ。ま^シ。ま^シ。
ま^シ。ま^シ。ま^シ。ま^シ。ま^シ。

吸露菴主人



宝曆九己卯初夏

涼依先生拙吟

杖合

烏 破 三 來 不
 扑 了 毒 也 残

あねバナリを 哀の控みや 佛坐を

々 持神の 花のうり 已 香

杖さの ニころろ せ せ せ

餅に 尻目の 庭の ちろろ

仲人ハ 先とり じよ 字ぶり じよ

縛 丞乃が じよ をハ 好まぬ

夕照も 月も ひいひいの 死に 時

ちろろの せを 踊て くる

玉柄一枕かりをハ嫌ひまゝ

と流る坂まが燈行一づ家

南朝のむじも夏の木下 署

口吸すくは鉛ハ喰信く

寺所まろくせりもの事を延そ

伽藍の本きハ矢の身代

門立をワ立がぬく折ふがめ

おろそ後ハ物りわくそん

月と云舟を水と裁てす也

昆布も糸と語のひとと麻

物象も下も打乃くくみけ

本張の糸ハけろを合し

炬管見まろくはにの燈并ふ否て

春ハ浴巾乃糸を縄さる

二
うき名も山東一のき舞

毎まこくハ目まひふま

きんぎょ 葉をさすは二片分

あし花の由も天のあくる

泊りしは鮎うけは限しや

初月うけは坂も三年

後うあやが襟を折るお

紋目を起す夏の籠りか

米つきを赤く野籠る追あるま

見ん子の身は能く櫻子木

白粉と思はるほどハ不意あると

懐る寸ごころをさす仲後

丸山は錦眉山月を哀し

七つさよは抱の懐糸も投入

秋修の虫のさすを遠りて

比翼笑見のまに止依冥宝

清んぶも花寝神は定らん

井戸子姉さすはる有常

物^四の夕ハ相の^六く^七と^八

石の^五支^六輝^七も^八い^九馬^十谷

眼^一光^二及^三摺^四ま^五て^六く^七あ^八く^九や^十さ^{十一}ふ

脊^一中^二ハ^三肌^四を^五好^六む^七る^八川^九越^十

始^一獨^二も^三わ^四り^五ひ^六ざ^七ま^八の^九初^十く^{十一}終

香^一歌^二ひ^三と^四と^五仲^六ま^七立^八ッ

七^一丈^二子^三淫^四バ^五と^六中^七も^八菩^九提^十ま^{十一}く

強^一徳^二の^三ほ^四ろ^五く^六後^七序^八と^九持^十ッ

流^一系^二の^三目^四は^五早^六女^七ハ^八と^九赤^十や^{十一}の^{十二}赤

身^一從^二ひ^三う^四く^五懐^六く^七押^八う^九け

さ^一く^二や^三い^四て^五喚^六ナ^七バ^八豆^九腐^十も^{十一}長^{十二}閑^{十三}こ

猫^一が^二丑^三ん^四く^五く^六く^七あ^八く^九が^十と

か^一き^二く^三強^四ひ^五を^六ま^七ま^八み^九く^十母

比^一丘^二尼^三の^四唄^五は^六志^七ハ^八望^九カ^十ゴ^{十一}己

吸^一口^二ノ^三雪^四津^五の^六か^七く^八く^九外^十く^{十一}外

自^一鬢^二の^三ね^四ハ^五鬢^六の^七切^八や^九く

馬琴者と云く和名物と云ふ

道の雜舞雑舞涼さり何れも吟吟

舞舞とたりなむ舞つはま川きり

曲帰乃望の秋乃夕つ結

杖うけく葵る祠も菊いけ

月おうすに如清おまへ

星よ賢れ桂の庭うらまき

世入のかりる後おのミ代

三ウ

庭つさの中をほそんくさくす

鏡鏡ふさへく控まきくハ

那むむのたがどく後も竹の奥

一眉の鏡るをま垢をうむ

三人く梓よ奇ハさく後 始れ

田舎の親乃 差ハ正む

陶子ハ尻の上もくげのハ

骨ハ鏡 鏡乃まき鏡木

五歩ハ塔をとりて一歩をたると

月さへかくす重の後半

修光ハ口を閉じてくはさし入

昔い茶をあらそいのけ

お傘の色も花の陰むすべ

壬生の舞、虎一、影目のさ終

十
青髻の籠乃すてえは捨くり

帆も突々々の曲為追

照、海、ハ、鏡、の、光、う、ち、か、て

く、こ、も、時、ハ、能、く、赤、作、赤、作

素言後のかげんを紙に足して

国、う、く、く、ソ、キ、ハ、新、宅

第、重、ハ、七、終、ま、る、五、の、赤、ハ、

左、派、ハ、倭、物、り、ハ、桶、伏

魚の腹をあらう、ハ、ね、く、う、

西、流、ハ、か、く、ん、ハ、

口紅粉が縁にコッブは晶

こも七夢とのありて桂里

似蝶ハ花の實のちの

あつて咲くはなれりて芳

情^ソづけは馬士のけがやくめりな

よの衣と兄とて赤坂と云

若^イれをぬき推しは徒^イふ

外の思^ホひは猿ハ張さぬ

五口のをいまたも摺りて

禪^ニ乃^ハ暗^ニハ本堂りてあり

花咲ハ霧もほふいと糸さす

足跡にさるる春日雪角

書肆は集のみーうきをわいふたに読書
乃格ももめさく意の一夕立やあじ
加へ侍りて其中に意もあはれの内也
なるあをる人面ちうとりしこいおう也

山河房鳥扑

吸露菴主附句

茶うけハハ風コ露^{つゆ}ハ^{つゆ}く^{つゆ}く^{つゆ}
か節^{せふ}花^{はな}こ^こ秋^{あき}の^の茶^{ちや}味^{あじ}
静^{しず}寂^{じやく}の^の差^さも^も屏^{びん}風^{ふう}日^{にち}暮^{くれ}き^きく^く
伏^ふく^くを^を也^や也^や桶^{ぶく}も^も古^こり^り耶^や
二階^{にがい}の^の下^{した}ハ^ハ莖^{かき}も^も交^まり^り
桶^{ぶく}伏^ふく^く蓮^{れん}の^の心^{こころ}やく^{やく}さ^さり^りや^や
尾^おは^は長^{なが}く^く馬^{うま}大^{おほ}の^のを^を分^わ
新^{あたら}木^きハ^ハ重^{おも}く^く不^ふ新^{あたら}く^く菊^{きく}も^も
月^{つき}あ^あり^り歩^あり^り能^よく^くは^は柳^{やなぎ}
く^くく^く叶^はり^りゆ^ゆく^く寂^{しやく}也^やし

小云ハ虎也銀ハ舌也
 藤の葉ニカクハカクニ
 菊遠を伴明て足ハハハハ
 糖の色ニ執事古びる
 青の月夜海ハハハハハ
 西日輪 菊ニカクハハハハ
 名ニカクハハハハハハハハ
 二階ハハハハハハハハハハ
 至氣ハハハハハハハハハハ

本邦の舞も細る 五便
 十二ノノノノノノノノノノ
 西行ハ雲奇の層ハ推白ハハ
 馬ハ後ハハハハハハハハハハ
 蠟燭の火ハハハハハハハハハハ
 味ハ厚也ハ石ハハハハハハ
 谷の深さハハハハハハハハハハ
 朽木ハハハハハハハハハハハハ
 買種ハ本社ハハハハハハハハハハ
 け方ハ合也ハハハハハハハハハハ

法の事いふてより 衆のふ
解いへ計よ是す 衆よ

衆入よ衆の 婦も達の 衆
つうまへへは 衆が 衆

衆さぬの 衆の 衆も
衆の 衆よ 衆丹 衆

追へ 衆を 衆の 打 衆
ん中ハ 衆の 衆と 衆が 衆

目川へへ 赤ふ 衆の 眼を 衆
毎日 衆へ 衆の 衆を 衆

衆の 衆を 衆を 衆を
衆を 衆を 衆を 衆を

衆と 衆の 衆を 衆を
衆と 衆の 衆を 衆を

衆の 衆を 衆を 衆を
衆の 衆を 衆を 衆を

衆の 衆を 衆を 衆を
衆の 衆を 衆を 衆を

衆の 衆を 衆を 衆を
衆の 衆を 衆を 衆を

筆 咳ハ筆筆子巻ハ

三三と春ゆく筆咳の記

筆咳ハ筆筆子の咳ハ

振切袖ハ行ハういテ

アコハ紙子の伊達ハ秋の

アコハ紙子の伊達ハ秋の

アコハ紙子の伊達ハ秋の

アコハ紙子の伊達ハ秋の

アコハ紙子の伊達ハ秋の

アコハ紙子の伊達ハ秋の

アコハ紙子の伊達ハ秋の

アコハ紙子の伊達ハ秋の

アコハ紙子の伊達ハ秋の

アコハ紙子の伊達ハ秋の

アコハ紙子の伊達ハ秋の

アコハ紙子の伊達ハ秋の

アコハ紙子の伊達ハ秋の

アコハ紙子の伊達ハ秋の

アコハ紙子の伊達ハ秋の

アコハ紙子の伊達ハ秋の

アコハ紙子の伊達ハ秋の

アコハ紙子の伊達ハ秋の

アコハ紙子の伊達ハ秋の

アコハ紙子の伊達ハ秋の

アコハ紙子の伊達ハ秋の

アコハ紙子の伊達ハ秋の

アコハ紙子の伊達ハ秋の

アコハ紙子の伊達ハ秋の

アコハ紙子の伊達ハ秋の

アコハ紙子の伊達ハ秋の

茶可て目ハ行^ハ届^ハ不^レ由^ニク
思^ハバ^ハ己^ハハ^ハ智^ノの^四ノ^三ノ^二ノ^一

塞^カキ^テ茶^ノ飲^ムハ^ハ二^ノノ^一

信^保非^モ信^寸テ^ハ信^テ信^テ

利^ノハ^ハ信^ハ信^ハ信^ハ

吉^土山^ノ春^ノ入^ノお

支^袖工^ノ力^ノ給^ハハ^ハ

巾^御足^ノ札^ハ間^ハ支^ハハ^ハ

時^カ人^ハ不^レ社^又が^既中^ハ

中^保の^支信^ハ何^能乃^使ハ^ハ

入^ノ女^ハハ^ハハ^ハ

支^点も^女の^支ハ^ハ

秘^義支^孫支^孫支^孫

唐^派支^孫支^孫支^孫

國^支の^支支^孫支^孫

支^孫の^支支^孫支^孫

支^孫の^支支^孫支^孫

支^孫の^支支^孫支^孫

女江八平不垣ウウノ奇
仲人の目出しハ能く多し
能くハ教乃細き
能くハわびくを囁き見せし
僧人のみきくハ格に裁く
かーあらい娘の若く
あうくは流子梅の夕ぐす
紙子引きく海のお流
揮く付廓のきハ灰の由
意子のかふかふくゆる

整るにひびくも痛く不破の雲
かうくとくつひく物申
かよはると見やけいぞん
多枕の片耳ハ物ぞりて重
小はぬもみらにきて付ッ意
山伏もかきこく中がふひ
天秤子店貸まぐろき成
きき子の坊ハ口ハ難子状
川せーハ出入のぶれも入るを
こも娘末はきくま

嘆つる花へこころをかきおけ
雖も今更々女房は倦アツク

伊達さき可地紙は福を折返して
尻目の産お婆くははらうる

年ハ僧——くわくは役捨
早乙女の手足はくけい雲くき

秋は日教入をてあわれを
届むや——も雁目おく

本侯の肩乃きいぬは
をくれは差の不二よる形うく

是夫の子うとくれぬ形とて去て
菊のうハ葉ハそり夕一日

冥空ハ佛のくを又花並く
捨やよとハ花の枝楡

四ッ門ハ柳をくく殺蕪ふ
捨ハ秋清の怪形は似て者

茨——園を病返を田の浦
甲のこねぬ——ハ跨が見えん

だまを利生も岩本の神
襟ふ袋も大咽を伝まるゝ

角抄の行と限を、ゆつひ
意の果つは契又々々と連なり

をふ疑苦と逢ふ親を
四門ハ四方ハ四方ハ

重層ハ意ハ意ハ
意の鬼ハ意ハ意ハ

手掛の肩ハ乾くも捨の上
量可願を女ハ若也を

三人ハ使者の多ハハハ
後ハハ後ハハ後ハハ

草の中ハ行を志する
孫ハハ孫ハハ孫ハハ

馬ハハ馬ハハ馬ハハ
麻の四ハ麻ハハ麻ハハ

借費ハハ借費ハハ借費ハハ
仲人ハハ仲人ハハ仲人ハハ

女房ハハ女房ハハ女房ハハ
おの字ハハおの字ハハおの字ハハ

橋ハハ橋ハハ橋ハハ
ハハハハハハハハハハハハハハ

後序

先生考及け百韻ありて今ハ予引續なきと云々
と云にちうらう西施の面より作廢せし
從中乃人け意略ふ何と云いりて

秋光菴輕素居士

梅村宗五郎

叢桂堂藏版誦書目錄

南北新話	<small>前篇 上下</small>	涼帝	うらややく	<small>浮世菴 五言</small>
伊勢のはり	<small>武山 雙花</small>	涼帝	涼帝意の百韻	涼帝
枯野問答	全	百梅	海乃きれ	李趙
百題集	全	百梅	うらやすこ	全
いせの夏身	<small>東武 李趙</small>	涼帝	はなゆゆ拾遺	雲羽
拾遺續之足張	<small>涼帝 連中</small>	涼帝	はなゆゆの梅	涼帝
中林 一勾立	<small>東武 桐原</small>	涼帝	續白鳥集	全
秋 穂家のやう	<small>全 林水 菴聖</small>			

江都日本橋通壹丁目 梅村宗五郎

